

補章 全経3級対策

日商3級と全経3級の出題範囲は、その多くが重複していますが、以下の相違があります。

日商3級

- ・ 移動平均法
- ・ 減価償却費（間接法）
- ・ クレジット売掛金
- ・ 電子記録債権・債務
- ・ 剰余金の配当
- ・ 有形固定資産の売却

大部分が重複

全経3級

- ・ 値引き
- ・ 減価償却費（直接法）
- ・ 消耗品
- ・ 有価証券の売買

日商3級の受験生は、全経3級対策として、① 値引き、② 減価償却費（直接法）、③ 消耗品、④ 有価証券の売買を学習する必要がありますが、①～③については、本章までに紹介済みです。従って、ここでは、「有価証券の売買」を中心に学習します。

1. 有価証券

有価証券は、「一定の権利を表章する証券」で、購入に要した価額で貸借対照表の資産の部に計上されます。有価証券には、小切手や約束手形、株式を表章する株券、投資信託の受益証券、国債証券など様々な種類があり、保有目的や保有割合などによって、名称や貸借対照表の表示場所が異なります。本章では、以下の有価証券のうち、売買目的で保有する「売買目的有価証券」だけを取り扱います。なお、現在、上場株式については株券を発行しないため、ペーパーとしての「証券」はありませんが、「有価証券」と表現します。

株式：株式会社の構成員としての地位（＝株主としての権利）

公社債

- 公債：国や地方公共団体が資金調達のために発行する債券、又は当該債券に係る金銭債務又は金銭債権 ex. 国債、地方債
- 社債：会社が資金調達のために発行する債券、又は当該債券に係る金銭債務又は債権

社債券

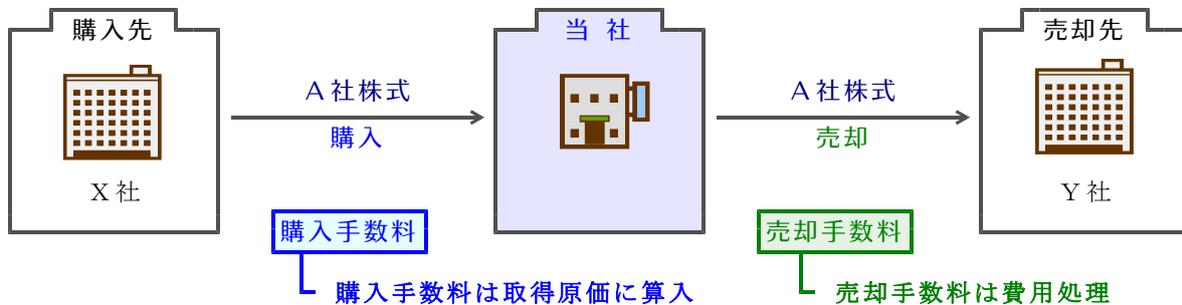
株式会社 I 牛乳			
第1回 無担保社債券			
金式千万円			
利率 年5%	償還期限	20X8年9月30日	
社債権者 F 牧場殿	利私日	毎	9月30日
本社債券は株式会社 I 牛乳が20X5年 9月24日に開催した取締役会の決議に従い、発行した社債券である。			
20X5年10月1日			
東京都世田谷区月光1-2-3			
株式会社 I 牛乳			
代表取締役 牛乳 花子			

株式を保有しているということは、株主としての権利を保有していることとなります。また、公債や社債を保有しているということは、債券の発行者に対する金銭債権を保有していることとなります。これら権利を取得するのに要した原価が株式や公社債の取得原価となります。従って、株券や社債券に券面額の記載があったとしても、その記載金額が取得原価になるわけではありません。

例えば、左の社債券には、2,000万円という記載がありますが、これが取得原価になるのではなく、実際に1,900万円で取得しているのであれば、1,900万円が取得原価となります。

1-1 有価証券の購入と売却

有価証券の購入や売却時には購入手数料や売却手数料が発生しますが、これらの処理方法は、商品仕入時の仕入諸掛や販売時における当社負担の発送費と同様に処理します。すなわち、購入手数料は有価証券の購入原価に算入し、売却手数料は費用処理します。



1-2 有価証券に係る仕訳

- (1) 売買目的でF社株式100株を1株500円で購入し、購入手数料600円とともに現金で支払った。

(借方) 売買目的有価証券	50,600	(貸方) 現金	50,600
---------------	--------	---------	--------

$$1 \text{ 株あたり購入原価} = (@500 \times 100 \text{ 株} + 600 \text{ 円}) \div 100 \text{ 株} = @506 \text{ 円/株}$$

- (2) 売買目的でI社社債、額面総額100,000円を1口100円につき98円で購入し、購入手数料1,000円とともに現金で支払った。

(借方) 売買目的有価証券	99,000	(貸方) 現金	99,000
---------------	--------	---------	--------

$$1 \text{ 口あたり購入原価} = (@98 \times 1,000 \text{ 口} + 1,000 \text{ 円}) \div 1,000 \text{ 口} = @99 \text{ 円/口}$$

- (3) 売買目的で保有していたF社株式60株を1株580円で売却した。その際、証券会社に売却手数料500円を現金で支払った。

(借方) 現金	@580 × 60株	(貸方) 売買目的有価証券	@506 × 60株
		有価証券売却益	4,440
(借方) 売却手数料	500	(貸方) 現金	500

現金 34,800円 (= @580円/株 × 60株) を受け取り、有価証券30,360円 (= @506円/株 × 60株) を手放しています。この差額 4,440円 (= (@580 - @506) × 60株) が有価証券売却益です。

また、この他に、売却手数料の支払仕訳とまとめて、次のように仕訳を行うこともあります。

(借方) 現金	34,300	(貸方) 売買目的有価証券	@506 × 60株
売却手数料	500	有価証券売却益	4,440

- (4) 売買目的で保有していたI社社債のうち、額面60,000円を1口100円につき96円で売却し、売却代金を現金で受け取った。この際、証券会社に売却手数料400円を現金で支払った。

(借方) 現金	57,600	(貸方) 売買目的有価証券	59,400
有価証券売却損	1,800		
-----		-----	
(借方) 売却手数料	400	(貸方) 現金	400

まず、購入単価 @99円/口の有価証券を @96円/口でしか売却できなかったため、売却損が600口分で $(@99/\text{口} - @96/\text{口}) \times 600\text{口} = 1,800\text{円}$ 発生します。

購入手数料は、商品のときと同じように、取得原価に含めるのかぁ



2. 仕訳問題（有価証券等）

次の各勘定科目群の中から最も適切と思われるものを選んで、下記取引の仕訳を行いなさい。
なお、消費税については考慮する必要はない。

勘定科目群

現金	当座預金	普通預金	受取手形	売掛金
未収金	売買目的有価証券	前払金	仮払金	車両運搬具
支払手形	買掛金	減価償却累計額	前受金	仮受金
売上	有価証券売却益	仕入	減価償却費	旅費交通費
支払運賃	支払手数料	有価証券売却損	繰越利益剰余金	損益

1. 証券会社を通じてA株式会社の株式600株を1株あたり90円で購入し、証券会社に支払う売買手数料500円を含めて、他人振出小切手で支払った。当株式は売買目的で保有している。

(借方) 売買目的有価証券	54,500	(貸方) 現金	54,500
---------------	--------	---------	--------

2. 売買目的で保有するB社株式（取得原価@5,000円）50株を@4,000円で売却し、売却手数料800円を差し引いた残額が当座預金口座に入金された。

(借方) 当座預金	199,200	(貸方) 売買目的有価証券	250,000
有価証券売却損	50,000		
支払手数料	800		

3. 額面1,000,000円のC社社債を額面@100円につき@97円で購入し、購入手数料5,000円とともに小切手を振り出して支払った。なお、C社社債は売買目的で保有している。

(借方) 売買目的有価証券	975,000	(貸方) 当座預金	975,000
---------------	---------	-----------	---------

4. 上記C社社債を額面@98円で売却し、代金は月末に受け取ることにした。

(借方) 未収金	980,000	(貸方) 売買目的有価証券	975,000
		有価証券売却益	5,000

5. 当会計年度（X6年4月1日～X7年3月31日）の8月1日に、600,000円で購入した車両につき、減価償却費の計上を行った。なお、当該車両の耐用年数は6年であり、減価償却費の記帳は、直接法によっている。

(借方) 減価償却費	80,000	(貸方) 車両運搬具	80,000
------------	--------	------------	--------

※ $600,000 \div 6 \times \frac{8}{12}$ (X6年8月1日～X7年3月31日) = 80,000円

3. 精算表作成

次に示す横浜商店の決算整理事項等に基づいて、答案用紙の精算表を完成させなさい。なお、横浜商店の決算日は3月31日で、1年決算である。

[決算整理事項等]

1. 売買目的で保有するA社株式（取得原価@5,000×100株）を1株あたり5,200円で、60株売却しており、既に売却代金は当座預金口座に振り込まれていたが未処理であった。
2. 商品売買は、3分法で処理しており、期末商品有高は162,000円であった。
3. 消耗品の期末実地棚卸高は、1,600円であった。
4. 仮受金18,000円は、仕入先からの当座振込を記帳したものであるが、これは先月の仕入金額に対して仕入割戻しを受けたものであることが判明した。
5. 期末売上債権に対して、差額補充法により2%の貸倒引当金を設定する。
6. 建物（取得原価2,600,000円、耐用年数は20年、残存価額は取得原価の10%）について、定額法を用いて減価償却を行う。記帳方法は、直接法によっている。
7. 借入金500,000円は、当期の8月1日に借入期間10ヶ月、利息は金利3%の条件で借り入れたもので、利息は元本返済日に一括して支払うことになっている。

精 算 表

勘定科目	試 算 表		修 正 記 入		損 益 計 算 書		貸 借 対 照 表	
	借 方	貸 方	借 方	貸 方	借 方	貸 方	借 方	貸 方
現金	142,800							
当座預金	148,600							
売掛金	98,000							
売買目的有価証券	500,000							
繰越商品	148,000							
建物	1,812,000							
買掛金		77,000						
借入金		500,000						
仮受金		18,000						
貸倒引当金		800						
資本金		1,500,000						
繰越利益剰余金		363,000						
売上		1,889,000						
仕入	1,238,500							
給料	252,000							
消耗品費	7,900							
	4,347,800	4,347,800						
貸倒引当金繰入								
有価証券売却益								
消耗品								
減価償却費								
支払利息								
未払利息								
当期純利益								

〔決算整理事項等〕

1. 売買目的で保有するA社株式（取得原価@5,000×100株）を1株あたり5,200円で、60株売却しており、既に売却代金は当座預金口座に振り込まれていたが未処理であった。

(借) 当座預金	312,000	(貸) 売買目的有価証券	300,000
		有価証券売却益	12,000

A社株式（売却分）の取得原価 @5,000×60株 = 300,000円

A社株式の売却代金 @5,200×60株 = 312,000円

2. 商品売買は、3分法で処理しており、期末商品有高は162,000円であった。

(借) 仕入	148,000	(貸) 繰越商品	148,000
繰越商品	162,000	仕入	162,000

3. 消耗品の期末実地棚卸高は、1,600円であった。

(借) 消耗品	1,600	(貸) 消耗品費	1,600
---------	-------	----------	-------

4. 仮受金18,000円は、仕入先からの当座振込を記帳したものであるが、これは先月の仕入金額に対して仕入割戻しを受けたものであることが判明した。

(借) 仮受金	18,000	(貸) 仕入	18,000
---------	--------	--------	--------

① 記帳済み： 当座預金 18,000 / 仮受金 18,000

② ①を取消し： 仮受金 18,000 / 当座預金 18,000

③ 正しい処理： 当座預金 18,000 / 仕入 18,000

5. 期末売上債権に対して、差額補充法により2%の貸倒引当金を設定する。

(借) 貸倒引当金繰入	1,160	(貸) 貸倒引当金	1,160
-------------	-------	-----------	-------

売掛金 98,000 × 2% - 800円 = 1,160円

6. 建物（取得原価2,600,000円、耐用年数は20年、残存価額は取得原価の10%）について、定額法を用いて減価償却を行う。記帳方法は、直接法によっている。

(借) 減価償却費	117,000	(貸) 建物	117,000
-----------	---------	--------	---------

建物 2,600,000 × 0.9 ÷ 20年 = 117,000円

7. 借入金500,000円は、当期の8月1日に借入期間10ヶ月、利息は金利3%の条件で借り入れたもので、利息は元本返済日に一括して支払うことになっている。

(借) 支払利息	10,000	(貸) 未払利息	10,000
----------	--------	----------	--------

500,000 × 3% × 8ヶ月 / 12ヶ月 = 10,000円 (8/1~3/31分)

精 算 表

勘定科目	試算表		修正記入		損益計算書		貸借対照表	
	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方
現金	142,800						142,800	
当座預金	148,600		312,000				460,600	
売掛金	98,000						98,000	
売買目的有価証券	500,000			300,000			200,000	
繰越商品	148,000		162,000	148,000			162,000	
建物	1,812,000			117,000			1,695,000	
買掛金		77,000						77,000
借入金		500,000						500,000
仮受金		18,000	18,000					
貸倒引当金		800		1,160				1,960
資本金		1,500,000						1,500,000
繰越利益剰余金		363,000						363,000
売上		1,889,000				1,889,000		
仕入	1,238,500		148,000	180,000	1,206,500			
給料	252,000				252,000			
消耗品費	7,900			1,600	6,300			
	4,347,800	4,347,800						
貸倒引当金繰入			1,160		1,160			
有価証券売却益				12,000		12,000		
消耗品			1,600				1,600	
減価償却費			117,000		117,000			
支払利息			10,000		10,000			
未払利息				10,000				10,000
当期純利益					308,040			308,040
			769,760	769,760	1,901,000	1,901,000	2,760,000	2,760,000